

# 日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 3 回 助成期間：平成18年11月1日～平成19年10月31日

テーマ： 自然と共に生き、よりよい環境を作り出す子の育成

氏名： 寺本幸子 所属： 横浜市立都田西小学校

## 1. 課題の主旨

子ども達が、自分達の地域を見つめることを通して 自然の美しさや身近な環境問題に気づき、関心を持ち、さらに自分自身も環境の一部であることを意識させたい。

一人ひとりが、学校、家庭、地域の環境と深く関わって生きていることに気づくことで、よりよい環境を作っていくにはどうしたらよいかを考え判断し行動できると考える。

本研究を通して自然と共に生き、よりよい環境を作り出す子の育成をめざしたい。



## 2. 準備

昨年度まで2年間、環境教育実践推進校として研究を進め、都田西小学校環境教育指導計画を完成させた。また、昨年度、日産科学振興財団「理科・環境教育助成」、環境創造局温暖化対策課環境学習「はまっ子ソーラー研究」取り組み校に応募し、研究助成を受けながら研究を進めてきた。今年度は、これにもとづいて学校全体で環境学習に取り組んだ。

## 3. 指導方法

- 1) 自ら楽しさや喜びを発見し、友達の良さに気づき一緒に考えながら活動していくための学習教材と場の構成を考える。
- 2) 子どもの思いや願いをつかむ支援のあり方を考える。
- 3) 一人ひとりの興味関心を高め、発想を引き出す事物・現象との展開を考える。
- 4) 自ら問題解決をし、科学的な見方や考え方が育つ授業構成を考える。
- 5) 自然に効果的に触れさせるための素材の選択と教材化を考える。
- 6) 授業実践に基づいた観察・実験の効果的な指導の研究をする。



## 4. 実践内容

### (全校児童)

- ・委員会活動によるカブトムシの幼虫などの飼育
- ・ごみの分別（燃えるゴミ・プラスチック・新聞紙・金属など）活動
- ・クラスごとにリサイクル箱を作り、画用紙などを再利用する活動
- ・校内のビオトープ、ミニビオトープを利用した水辺の生き物の飼育・観察
- ・江川せせらぎ水辺愛護会・都筑水再生センター等との連携による蛍の幼虫の飼育と放虫
- ・ホタルの餌になるカワニナを幼貝から飼育
- ・校内に設置した風力・ソーラー発電を利用した魚の飼育
- ・学区美化活動「クリーン大作戦」の企画と実施
- ・子どもエコ活動（節電・節水等）などの児童会活動の推進
- ・給食の牛乳パックの回収活動
- ・ペットボトルのキャップ回収
- ・環境をテーマにした催し物・コンクールへの積極的な呼びかけと参加
- ・環境をテーマにしたポスターの掲示
- ・環境に関係のある写真や資料などを展示
- ・栽培委員会が、年間を通して花壇の整備や黒土の手入れなどの活動



### (低学年児童)

- ・身近な動植物（飼育小屋の動物、昆虫、草花、木の実）とふれあい、生命を大切にする心を育む
- ・五感をおおいに生かして自然と触れ合うすばらしさを学ぶ

### (中学年児童)

- ・飼育や観察を通して昆虫、植物のつくりを知り自然のすばらしさ・大切さを学ぶ
- ・ゴミを減らすことを目的とした学習を進め、資源の大切さを学ぶ
- ・理科学習の「生き物をしらべよう」の発展から鳥や樹木などに興味をもつ気持ちを育む



### (高学年児童)

- ・自分たちの生活の様子に目を向け、環境の問題や課題に気づかせる
- ・環境問題について 理科学習や総合活動の時間にとりあげて学習し、下級生や地域の人々に伝えようとする力を育てる
- ・自然資源を守る取り組みについて知り、実践する力を育てる

### (保護者)

- ・環境ボランティアによる花壇の整備、鉢栽培（通年）
- ・1，2年生のサクラソウの種植えの手伝い

右の“都田西小学校の樹木と鳥”のパネルは、4年生の理科学習「生き物をしらべよう」の発展から学校内の樹木や鳥に興味をもった四年生が1年間かけて総合活動で学習したことをまとめた。また、12月の都田西発表会では実際にみたり触ったり味わったりした活動について劇にして発表した。

五感を必ず使って観察することと、季節ごとの変化を記録することなどを支援してきた。植物においては、芽・花・実・種の一連のつながりが理解できるようにした。

特に、鳥においては鳴き声がかきこえるたびに話題にし、体育の授業中でも姿がみえると観察をして記録した。このように常に児童が興味関心をもって活動できるように支援してきた。



## 5. 成果・効果

各教科に環境教育の視点を盛り込み、子どもたち自身が気づき、行動できるように学習を進めてきた。学習や掃除等でごみに対してもいろいろな種類に分別ができ、ものを大切にしようとする意識が身についてきた。そしてピオトープやミニピオトープ等を活用し、理科の学習から総合学習へ発展させ校内の樹木と鳥マップを作ったり、鶴見川の汚れについて調べたりした。このことにより自然とのふれ合いを深めよりよい環境づくりへの意識が高まりつつある。

## 6. 所感

今回環境教育助成を受けたことにより、環境教育を推進するうえでの施設・設備が整った。また、子どもたちの環境への関心が深まってきた。

## 7. 今後の課題や発展性について

今後は施設・設備をさらに効果的に活用して、子ども達に自然と共生していくことの大切さ、環境を大切にする意識を養っていききたい。そして、自然や人とのふれ合いを深め、よりよい環境づくりに取り組める子ども達の育成にあたっていききたいと思う。